

(様式第4号)

上田市交流文化芸術センター運営協議会 会議概要

1 審議会名	上田市交流文化芸術センター運営協議会
2 日時	令和3年10月29日 午後1時30分から4時まで
3 会場	上田市交流文化芸術センター大ホールホワイエ
4 出席者	荒井洋文委員、岩木功委員、島田和子委員、関和幸委員、田中美恵子委員、平田利江子委員、山寺高太郎委員、吉本永喜委員
5 市側出席者	小相澤政策企画部長、西田館長、荻原総合プロデューサー、清水副館長、小澤プロデューサー、小泉舞台技術係長、宮下広報等係長、横澤総務係長 合同会議（山寄美術館長、清水学芸・展示担当係長、小笠原教育・普及担当係長）
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和3年10月29日

協 議 事 項 等

交流文化芸術センター運営協議会・美術館協議会合同会議

- 1 開会（政策企画部長）
- 2 あいさつ（館長）
- 3 出席職員の紹介（政策企画部長）
- 4 報告事項
(1) 公共施設マネジメント基本方針及び個別施設計画について
・ 計画策定の根拠を説明。（副館長）
- 5 協議事項
(1) 施設使用料の改定について
・ 施設使用料の改定の考え方について説明。（副館長）
- 6 その他 ・ 特になし
- 7 閉会

第1回 交流文化芸術センター運営協議会

- 1 開会（副館長）
- 2 議事（会長）
(1) 令和2年度事業実績報告
(2) 令和3年度及び令和4年度事業について
・ 令和2年度のホール等の公演とアウトリーチ（学校や公民館等へ出向いての演奏会）、決算概要等について説明。令和3.4年度の実施状況や事業計画について説明。（副館長）

【委員】

- ・ 自主事業のチケット料金の設定の考え方と、事業の補助割合はどれくらいか。

【事務局】

- ・オーケストラの場合は本拠地の劇場の料金を参考にしている。ソリストの場合はコアな音楽ファンでない一般の方が来やすい料金ということを考え、2、3千円で設定している。アンケートや収支バランス等も考えながら検討している。補助金は事業費全体の最高で50%なので、年度により変動があるが最高で50%、低い年は30%くらいである。文化庁以外の補助金も申請しており、県や総務省の補助があった場合は100%近い場合もある。

(3) 施設使用料の改定について

- ・開館当時（H26）と、R3年4月時の県内類似施設と交流文化芸術センターの使用料を比較した表を用い現在の状況を説明。令和2年の検証委員会の「答申書」及び令和3年運営協議会の「第2期運営管理計画」で求められた他施設使用料の改定について協議を依頼。（副館長）

【委員】

- ・開館時の使用料の設定が低額過ぎた。
- ・使用料金が安過ぎると、交流文化芸術センター（以下、館）の価値が損なわれる。
- ・類似施設並みに値上げすると倍近い使用料となる。館の質としては当然と思うが抵抗感もある。
- ・使用料の改定に納得できるよう、これまでの活動状況をアピールし館の価値を広く認識してもらうことが必要である。
- ・将来的にもこの館を維持できるように収支バランスを調えるべきである。
- ・併せて減免団体の利用についても規制等の検討が必要である。
- ・稼働率の高い中小スタジオ等の使用料の改定を先にしてはどうか。

【事務局】

- ・館としてのブランドや今後の維持管理のため運営努力を続けていく。
- ・減免団体の利用調整については現在できていない。行政利用を含めて検討していく。
- ・館の活動PRに今後も努力していく。
- ・さまざまな視点からいただいた意見を考慮し庁内で検討し、次回は改定案を示したい。

(4) 個別施設計画について

- ・今後の大規模改修（2044年頃）の経費や、市内の類型文化施設との統廃合を含めた複合施設化等の検討課題について説明。（副館長）

【委員】

- ・庁内で他の文化施設も含めた全体の統廃合や複合について長期的計画を検討すべきである。

【事務局】

- ・いずれ検討が必要なことは認識している。庁内で問題提起していく。

4 その他

次回協議会は、令和4年5月頃を予定している。

5 閉会（政策企画部長）